

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	㈱京都冷蔵15号棟	階数	地上3F
建設地	京都府久世郡久御山町田井向野37番1、38番1	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域、第四種特別工業地区	平均居住人員	5人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年8月 予定	評価の実施日	2010年1月15日
敷地面積	2,738 m ²	作成者	宮澤豊高
建築面積	1,251 m ²	確認日	2010年1月27日
延床面積	3,292 m ²	確認者	宮澤豊高

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 敷地内の緑化に努め、環境負荷の低減に努めた。		注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 天井・壁・床を断熱仕様による冷房負荷の軽減を配慮し	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 各フロアの出入り口付近に散水栓を設置し、衛生面に配	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内緑化(地上部、屋上部の緑化)に努め、景観・ま
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 保温に優れた防熱設計にし、エネルギーの低減を図った。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 雨水を利用した緑化システムを導入し、水資源保護に配慮した。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緑化部分を確保し、温熱環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい